

1 (5) 5 の倍数指定 (6) 24 時制指定

(1)	おおぐま 座	(2)	A	(3)	星座	こぐま 座	色	黄 色	(4)	C
(5)	15 度	(6)	20 時	(7)	エ	(8)	イ	(9)	8 月	

2

(1)	2 枚	(2)	C	ア	G	ウ	(3)	エ	(4)	オ
(5)	B	ア	E	オ	F	エ				

3 (3), (5), (7), (8), (9) 各順不同完答

(1)	あ	(2)	A	(3)	D と F	(4)	ア	(5)	B と E
(6)	ウ	(7)	C と E	(8)	A と C と E	(9)	B と D と F		
(10)	ウ								

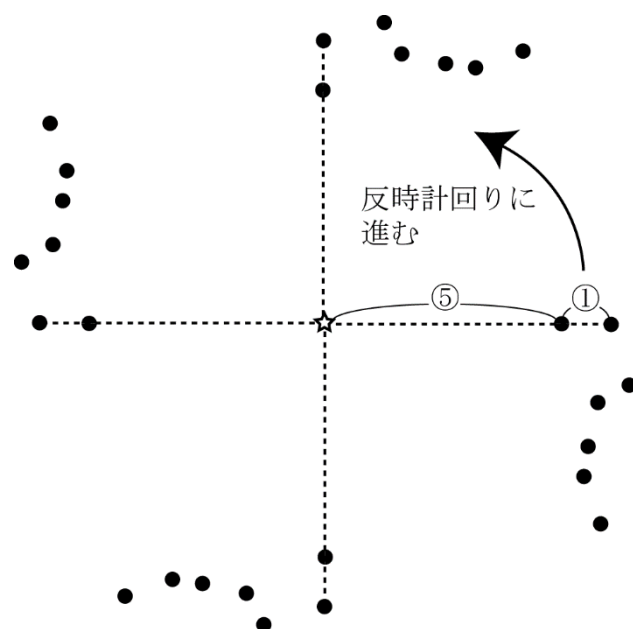
4

(1)	A	ウ	C	ア	D	エ	(2)	E	(3)	エ	(4)	ウ
(5)	ア	(6)	B									

[配点] 1~3 : 各 3 点 × 28 = 84 点  
 4 : 各 2 点 × 8 = 16 点 (合計) 100 点

1

- (2) 右の図のように5倍のぼした先に北極星がある。  
 (4) 北極星を中心に反時計回りに進む。  
 (5)  $360 \text{ 度} \div 24 \text{ 時間} = 15 \text{ 度/時間}$   
 (6) 1か月後には30度進むので、同じように観察するには30度戻せばよい。  
 $30 \text{ 度} \div 15 \text{ 度/時間} = 2 \text{ 時間前}$ となる。 $22 \text{ 時} - 2 \text{ 時間} = 20 \text{ 時}$   
 (7) 6時間後なので、 $15 \text{ 度/時間} \times 6 \text{ 時間} = 90 \text{ 度}$ 進む。  
 (8) 9か月後なので、 $30 \text{ 度/月} \times 9 = 270 \text{ 度}$ 進む。  
 (9)  $22 \text{ 時} - 20 \text{ 時} = 2 \text{ 時間前}$ なので、 $15 \text{ 度/時間} \times 2 \text{ 時間} = 30 \text{ 度}$ 戻る。(7)のウのようになるには180度戻せばよいので、さらに150度戻せばよい。  
 $150 \text{ 度} \div 30 \text{ 度/月} = 5 \text{ か月前}$ となる。 $1 \text{ 月} - 5 \text{ か月} = 8 \text{ 月}$

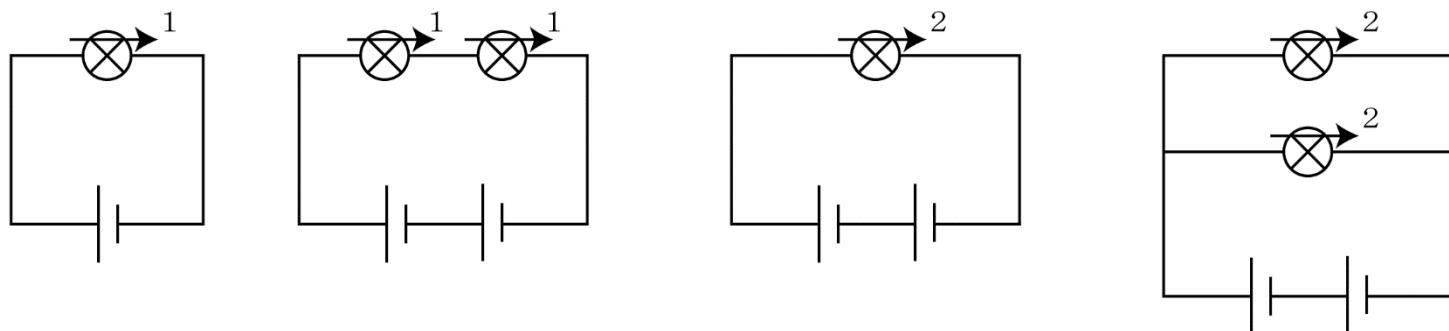


2

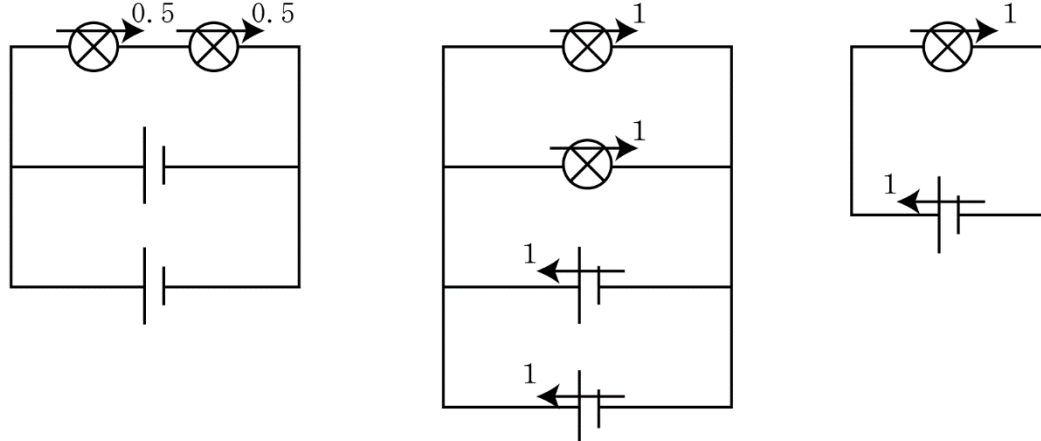
- I Dがイエバエ（はね2枚）とわかる。 II Gがナナホシテントウとわかる。  
 III Aがモンシロチョウとわかる。Cは幼虫で冬越しをし、かむ口なのでシオカラトンボとわかる。そして、Fが残りのかむ口のこん虫であるオオカマキリとわかる。  
 IV Eは幼虫で冬越しをし、不完全変態なのでクマゼミとわかる。残ったBが幼虫で冬越しをするカブトムシとわかる。

3

- (4) 豆電球1個とかん電池1個に電流が流れるようにつなぐ。  
 (6) 豆電球Zに流れる電流の大きさを1とする。 (7) かん電池を直列つなぎ (8) 豆電球を並列つなぎ  
 かん電池を直列つなぎ



- (9) 豆電球を直列つなぎ  
 かん電池を並列つなぎ (10) 豆電球もかん電池も並列つなぎになる。  
 それぞれのかん電池に流れる電流の大きさは同じになるので、  
 かん電池の寿命も同じになる。



4

- A : カラスノエンドウ B : スギナ C : ハルジオン D : オオイヌノフグリ E : ヒガンバナ  
 (2), (3) ヒガンバナは秋に花を咲かせる。花びらは赤色が多い。  
 (4) マメ科の植物を選ぶ。 (5) キク科の植物を選ぶ。 (6) スギナはシダ植物のなかまで、胞子で増える。